

令和元年度 第2回 泉佐野丘陵地緑地 運営審議会

日時：令和2年1月28日（火）10:00～12:00

場所：泉佐野丘陵地緑地 パークセンター

◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学 特認教授 増田昇（会長）

元大阪府立大学大学院 教授 前中久行

和歌山大学 システム工学部 准教授 佐久間康富

和歌山大学 システム工学部 教授 宮川智子

泉佐野市都市整備部 部長 藤基忠興

泉佐野丘陵地緑地パーククラブ 代表 那須利之

泉佐野丘陵地緑地パーククラブ 副代表 久住和茂

泉佐野丘陵地緑地パーククラブ 事務局長 大家清信

◆欠席委員

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 加我宏之

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田重昭

大輪会事務局長 田中大之

◆傍聴者 なし

◆概要

1. 前回のふりかえり 10:00～

2. 協議案件 1件

①（仮称）10周年誌の構成（案）について

3. 報告案件 4件

①中地区検討部会報告

②パーククラブ活動内容（10月～1月）及び活動計画（2～3月）について

③えんづくりプログラムの実施結果について

④その他

<協議案件1：(仮称) 10周年誌の構成(案)について>

【構成について】

- ・10年誌は多方面に役立つだろう。人によって、どこを重点的に見たいのかは変わってくるだろう。最初から全てを読み込んでいくような内容ではなく、始めに構造がわかり、興味関心に応じて細部を重点的に読み込んでいくような、立体的な構成がいいだろう。
- ・各ページに、関連するページはどこなのかが記されているとわかりやすい。そのようなインデックスをつけ、なるべく立体的な構造に見えるようにするとよい。
- ・これから新しく公園に参画する人たちへのメッセージという観点で整理すると、最初の見開きに、これまで関わってきた様々な人たちがつながっているような絵を描き、それを見れば、どんな切り口で関わることができるのかがわかるようにするとよい。そこから、自分が関わりたい立場に応じてページを開くことができるようなインデックスを載せておく。
- ・項目の順番についても、参加の方法が始めにあり、その次にコンセプト、その次に課題解決と今後について、という順序であればわかりやすい。

【載せる情報について】

- ・パーククラブの5周年誌には、各エリアのビフォーアフターが載っていた。10周年誌にもぜひ載せてもらいたい。最初に手をつけなかった部分の植生はどうなっているのか。十数年活動してきた中で樹林はどう変化したのか。それが空間整備そのものであり、そこに多くのエネルギーを傾注してきた。それがあると、次の10年ではそれらを維持するのか、樹種転換を進めていくのか、といった戦略に繋がっていく。
- ・2007年～当時の航空写真を載せたい。今よりも竹林に覆われていた時代である。30年前にもなると、棚田はくっきりと写っている。
- ・年表に各年度の図面が並んでいるが、どのような変化が起きているのか、濃淡をもっと明確にするとよい。
- ・パークセンターの設置など、リーディング区域の整備についてもパーククラブの整備と同等に情報を並べてほしい。
- ・既存の園路などは、なぜこのようなルートにしたのかなど、それぞれに理由があるはずである。それらは会議で発言があり、提案されて決定しているのか。そんな記録がわかるとよい。
- ・課題も書いていくとよい。一定以上の園路を作ると管理が課題になること、竹林に一度手を入れると毎年入れなければならないこと、など。
- ・レンジャー棚田はイノシシに荒らされてから柵を作った、などの経緯もわかるとよい。
- ・強度な造成は極力しない、といった原則的なこともわかるとよい。
- ・チップー道と、人だけが通る道が明確にわかるとよい。チップー道は、森のスケールに対しては少し広すぎる。しかし軽トラなどによる物の搬入に必要な広さでもある。そのような理由がわかるとよい。

- ・現在の図面には、植生に関する情報が抜けている。例えば、皆伐して植生の変化を見ている場所がある。隠れ池周辺や、果樹エリアなどである。図面に美しくまとめるよりも、リアリティのある図がよいだろう。
- ・植生図をベースとして、その上に絵を描いてみるとよくわかるだろう。そうすれば隙間もなくなる。
- ・次世代の苗を育てるために作った圃場の情報も必要である。
- ・ササユリの盗掘、レンジャー棚田の作物の盗掘などの事件があり、その対策を練ったこともあった。
- ・郷の館で運営審議会を開催していた時代がある。そんな変遷もわかるとよいだろう。
- ・パーククラブがアイデアを出して、実現しなかったことも載せておいてほしい。ファイアサークルや、野鳥の観察小屋など。実現しなかった理由が大切である。
- ・2016年度以降はあまり新規開発に取り組んでいない。そこで維持管理によってどれくらい時間をとられているのか、定常管理においてどのような苦労があるのか、などを知ることができる。とよい。

<報告案件1：中地区検討部会の報告>

事務局より報告。

<報告案件2：パーククラブ活動内容（10月～1月）及び活動計画（2～3月）について>

大家委員より報告。

<報告案件3：えんづくりプログラムの実施結果について>

事務局より報告。

- ・公園のホームページに載せるだけでは伝わりづらいので、メーリングリストを作り、そこに情報を送っていくことができるとよいだろう。
- ・来年度は30分コースや1時間コースなどのルート設定にも取り組む予定である。
- ・その時には自然観察だけではなく、パーククラブが植生管理に取り組んできたことの楽しみや苦労なども解説できるとおもしろいだろう。
- ・各チームから代表者を出してもらい、それぞれの視点からルートを提案してもらおう予定である。それを踏まえて作っていききたい。